第３回 小石原川ダムモニタリング部会　議事要旨

日　時：令和元年 12 月 13 日（金）14：30～16：30
場　所：ピーポート甘木第５学習室
出席者：（委員）古賀部会長、飯田委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、山根委員
（事務局）12 名
（オブザーバ）朝倉市、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所
（報道機関）西日本新聞社

資　料：
議事次第
資料−１　出席者名簿
資料−２　小石原川ダムモニタリング部会の設置について
資料−３　小石原川ダムモニタリング部会　規約
資料−４　小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について
資料−５　第２回小石原川ダムモニタリング部会　議事要旨
資料−６　令和元度小石原川ダムモニタリング調査結果・令和２年度小石原川ダムモニタリング調査計画

審議内容等：

１．小石原川ダムモニタリング調査計画の概要

小石原川ダムモニタリング計画の概要について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

２．第２回モニタリング部会の審議結果

第２回部会の意見等について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

３．令和元年度モニタリング調査結果

令和元年度に実施しているモニタリング調査結果について事務局より説明した。

調査結果に係る本日欠席委員からのコメントとして、以下が紹介された。

〇コキクガシラコウモリについては、整備したコウモリトンネルにおいて継続して確認されてり、環境保全措置としてうまくいっている。年数が経てば個体数は増加するだろう。

部会における各委員からの意見は次のとおり。

〇植物の重要な種の移植に関する保全対象種の獣害に関する試験について、移植個体数が少ないことや、調査データがまだ１年間しか得られていないため獣害対策の効果についての評価は困難であるが、ロープの設置や急斜面への移植は獣害対策に効果がある可能性が高いと考えられる。

〇ヤマネについては、生息環境が維持されているか、確認された個体数の経年的な変化について

データを整理して欲しい。

○植物の重要な種については、移植個体を今後も維持していくため、持続性のある維持管理方法について検討して欲しい。

○整備する湿地環境について可能な限り貧栄養の環境を維持するため、水田等の富栄養な土壌を用いないほうがよい。

○湿地環境の整備後は両生類等が生息すると考えられるが、遷移が進み乾燥化・樹林化すると両生類等が生息できなくなる。このため、整備した湿地環境をどのように維持していくかについて検討して欲しい。

○小石原川ダム湖内における魚類等の生物環境のモニタリング調査については、具体的な調査位置等の計画を示して欲しい。遷移

○両生類のブチサンショウウオ幼生や爬虫類のタカチホヘビ、ジムグリ等が確認されていない。これらの種は良好な環境の指標となる種であるため、今後の調査では確認に留意して欲しい。

○重要な種以外の普通種についても減少する可能性があるため、モニタリング調査でしっかりと確認することが大切であり、確認した全種のリストを整理しておくことが重要である。

○植物プランクトンや底生動物等の水生生物は、ダム湖や河川の水域の生態系を構成しその豊かさや水質の状況を指標するものとなるため、そのような観点で今後の調査、分析及び評価を行って欲しい。

○陸上昆虫類等の調査結果でスギ・ヒノキ植林の確認種数が多い結果となっているが、通常、植林地は生物多様性が高くないものである。今回の結果は、調査地区内に沢があるなど多様な環境を含んでいることによるものと考えられるため、結果の分析・評価においてはそのことに留意するとよい。

○小石原川ダムと江川ダムの間の導水路の放水口付近では、小石原川に佐田川の水が入ってくる場所であるため、底生動物の調査地点を追加することを検討して欲しい。

○常落混交広葉樹林の復元・整備のモニタリング調査結果では、植栽している樹種や樹種ごとの生存率についても示してもらいたい。

○樹木の伐採箇所では餌場となりシカが増える可能性もあることから留意してもらいたい。
また、狭い範囲でもよいので、ロープ柵を設置するなどの獣害対策を検討して欲しい。

○資料に使用している図面には、平成 30 年に命名された江川岳を示して欲しい。

○ダム完成後の利活用・地域振興について関係市町村と協議を継続して欲しい。

４．クマタカ保全検討会の報告について

○クマタカ保全検討会の開催状況、審議内容を報告した。

○モニタリング対象としているクマタカ５つがいについて、これまでの繁殖状況の調査結果から工事に伴う影響は考えられないとの報告があった。

５．令和２年度モニタリング調査計画

令和２年度モニタリング調査計画について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

以　　上